

RCC

FORUM

No. 37



(OMRI Bouzid)

1964年セネッド（チュニジア）生まれ
2005年関西学院大学大学院総合政策研究科博士課程後期課程修了
総合政策博士
博士論文 “Modern women in urban and rural Tunisia: the dream and the reality”
2006年より関西学院大学神学部、総合政策部、理工学部などで非常勤講師
関西学院大学大学院総合政策研究科研究員。
授業ではイスラームやクルアーン入門、イスラームから見たキリスト教や聖書、アラブのキリスト教などについて講義している。現在の研究テーマは、イスラーム世界の女性問題、そしてチュニジア・ジェルバ島におけるユダヤ人コロニーとの共生問題などである。

イスラームと平和

— アラブから見えてくるもの —

オムリ・ブージッド 氏

(本学総合政策研究科研究員)

● 日時: 2007年11月28日(水)

第3時限(13:30~15:00)

● 会場: 関西学院大学

西宮上ヶ原キャンパス

吉岡記念館研修室 1

—どなたでも聴講できます—

講演内容

日本では、アメリカの同時多発テロ以降、一般の人々のなかでもイスラームは暴力や不寛容の代名詞になり、理解しがたいものと感じられているようである。しかし日本のメディアは、イスラームやアラブ世界を正しく捉え、報道しているのだろうか。一般に私たちが知っているイスラームやアラブ世界は、欧米人の目を通して見た欧米のメディアのよるところが多く、したがって平和や共生を考えると欧米からの視点であることが多い。

では、アラブ人は平和をどのように捉え、どのように考えているのだろうか。

アラブ・イスラームからの視点を提示する。

Kwansei Gakuin University

RCC

関西学院大学キリスト教と文化研究センター

TEL: 0798-54-6019 ・ http://www.kwansei.ac.jp/c_rcc/index.jsp